

| 平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|--------|------|--|------|-------|-------|-------------------------|-------|--------------------------|-------|------------------|
| 教科目名 | 卒業研究 | 担当教員 | 建築学科教員 | | | | | | | | | | |
| 学年学科 | 5 年 建築学科 | 通年 | 必修 | 6 単位 | | | | | | | | | |
| 学習・教育目標 | (B-1) 25%、(B-2) 55%、 (C-1) 10%、(C-2) 10% | JABEE 基準 1 (1): (d) | | | | | | | | | | | |
| 授業の目標と期待される効果： 自主的に研究課題に取り組み、問題解決方法を模索し、結果を論文・設計作品としてまとめる過程を通じて、総合的な問題解決能力を習得する。 ① 専門知識と問題解決能力を身につける ② 種々の情報を活用する能力を身につける ③ コミュニケーション能力を身につける ④ 問題解決を計画的に進めまとめる能力を身につける | | 成績評価の方法： 後期中間に中間発表会を開催し、その進捗状況・問題点を確認する。学年末には卒業研究発表会での本論文、梗概、発表を踏まえ、建築学科全教員により審査会を開催して「卒業研究評価・達成度評価一覧」により評価する。 達成度評価の基準： 梗概総合評価もしくは発表総合評価の何れかの評価で3を下まわる評価を下した教員数が、総判定者数の 1/2 を超えたときは不合格とし、1/3 を超え 1/2 以下のときは保留とする。保留の場合、その後の指導で3以上に改善されれば合格となる。また、不合格とはならなかった場合でも、その完成度により再提出を課す場合がある。 尚、この「卒業研究評価・達成度評価一覧」は事前に学生に提示される。 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方とアドバイス： 配属先の研究室に関連する内容については、自主的に復習する必要がある。 進路の方向性を考慮して専門分野を選択することが望ましい。 授業時間だけでなく、自主的な取り組みが必要である。 | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書および参考書： 教科書： 研究室の指導教員から、参考資料等が指示される。 | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の概要と予定： <p>卒業研究／卒業設計は、4 年有余にわたる学習によって得た専門的創造力・表現力及び技術的知識をみずから思考選択し、配属される研究室の指導教員からの助言によって卒業論文を作成する。</p> <p>配属は、4 年次学年末に行い、春休みより 1 年間、研究活動を行う。単なる授業ではなく、高専で学習した総合的な研究活動となるため、自主的かつ積極的に取り組むことが必要である。</p> <table border="1" data-bbox="279 1182 1082 1388"> <thead> <tr> <th>専門分野</th> <th>教 員 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>構 造 系</td> <td>下村 波基、犬飼 利嗣、柴田 良一、田中 正史</td> </tr> <tr> <td>計 画 系</td> <td>鶴田 佳子、今田 太一郎、藤田 大輔、清水 隆宏</td> </tr> <tr> <td>環 境 系</td> <td>小川 信之、青木 哲、中谷 岳史</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | 専門分野 | 教 員 名 | 構 造 系 | 下村 波基、犬飼 利嗣、柴田 良一、田中 正史 | 計 画 系 | 鶴田 佳子、今田 太一郎、藤田 大輔、清水 隆宏 | 環 境 系 | 小川 信之、青木 哲、中谷 岳史 |
| 専門分野 | 教 員 名 | | | | | | | | | | | | |
| 構 造 系 | 下村 波基、犬飼 利嗣、柴田 良一、田中 正史 | | | | | | | | | | | | |
| 計 画 系 | 鶴田 佳子、今田 太一郎、藤田 大輔、清水 隆宏 | | | | | | | | | | | | |
| 環 境 系 | 小川 信之、青木 哲、中谷 岳史 | | | | | | | | | | | | |